

KAS

風の谷

びゅう
VIEW

社会福祉法人 風の谷

相模原市田名7236-3

発行責任者 政野 光廣

042-760-1033

<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>

e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp



だるま製作：石崎将史

【2007年 秋号】

| | | | |
|--------------|---------|-------------------|-----|
| 巻頭文 | P 2 | 支援センター | P 3 |
| 特集：防火防災について | P 4・P 5 | 自閉症について（ヘルパー実習より） | P 6 |
| QWLの取り組みについて | P 7 | 後援会のページ | P 8 |

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 柳場秀雄 〒228 0806 相模原市栄町6 14

毎月15日発行 購読料1部 50円

自閉症児・者親の会から

日本自閉症協会は平成元年10月に会員3,397人で社団法人として発足、平成17年には15,475名(賛助会員含む)になりました。現在も会員は増えており、大きな組織になっています。

会員数が増加するにつれ、全員参加の総会は現実には難しいこと。協会は国レベルの課題に取り組み、自閉症の人たちが住む地域ごとの課題に取り組む支部組織の役割を明確にして、地方分権の時代に対応した組織にすること。新公益法人制度の実施に伴い公益性の認定を受ける必要があり、法人組織の厳格性を強く求められています。今後について、現在の組織の良い点を活かしつつ、より強固な全国団体としての組織体制に脱皮し、同時に各地区活動は地域の特性にふさわしい活動内容を活発に行えるよう体制を強化するため、組織変更を行ない、定款を変更しました。大きく変わったことは、総会は各地区から選ばれた代表(代議員)で構成され、今まで会員一人一人が持っていた議決権はなくなります。地方組織は独立し、会計は別会計になります。各支部同じですが、神奈川県を例にあげますと、日本自閉症協会神奈川県支部の名称がなくなり、神奈川県自閉症児・者親の会連合会のみになります。神奈川県自閉症児・者親の会連合会としては、現状それに伴う混乱はないと思っていますし、各地区の活動にも支障はないと考えています。

現在の神奈川県自閉症児・者親の会連合会(横浜市、川崎市を除く)について話しますと、正会員の数は438名で、その内訳は、男性369名女性69名と男性が全体の84%になっています。また子どもの年齢が7歳から17歳までの会員が261名と60%を占めています。自閉症の診断・判定を受けた時期が「出生直後」から「小学校に入る時」までが全体で52.6%とのと調査結果から考えますと、この年齢域は子供の診断結果を聞き、これからどのように育て、子供と向き合っていったら良いのかとご両親にとって不安が一杯の時期、そのために多くの情報が欲しい、先輩の意見、体験を聞きたい、話を聴いて欲しいという人たちが多いと思います。よって会員の数もこの年齢域は多いものと思われる。子どもが18歳以降の会員については144名、全体で33%と少なくなります。親の会の話題も自然に療育、教育関係が多くなる傾向にあります。療育、教育は非常に大切ですが、話題が偏っていくのではと少し心配になります。将来を考えた時、就労関係、成年後見、自立支援法などは大切な問題なのですが、さし迫っていないため関心が今一步の様に感じます。今後の親の会の活動を支えるため、一人でも多くの入会をお願いしたいと思います。

自閉症という言葉を知っている人は100%近くになっています。しかし福祉行政に期待することについての質問では、「障害者に対する周りの人の理解」42%。「いやな思いをした」56.9%から35.4%に減少。「就業において社会の理解があると思いますか」の質問に56%の人が思わないと回答をしています。自閉症の場合、もう少し数値が上がると考えます。発達障害者支援法が制定され、発達障害の定義に自閉症の名前が出ています。しかし、発達障害の名前に隠れてしまい自閉症が理解されにくくなるのではと、心配する声も出てきています。今後も自閉症の人たちが安心して住める社会を目指して活動して行きたいと思います。

神奈川県自閉症児・者親の会連合会代表 柳場秀雄

相模原自閉症支援センター便り

「今日も暑かったですね。」今年の夏はこの言葉が挨拶のようでした。このことに異論反論がある方はすくない事でしょう。さて、そんな猛暑の中でも社会福祉法人「風の谷」の活動は止まることなく進んでおりました。もちろん相模原自閉症支援センターの活動もあった訳ですが、今回はその夏の活動の一部をご紹介しますと思います。

やはり夏の活動は“水もの”が多くなります。その“水もの”の中でも一番人気といえば、やはりプールになります。幸いなことに相模原市には市営のプールがたくさんあり、屋内プールが4つ、屋外プールも3つあります。しかも北の丘センターには流れるプールや障害者用のプールもあります。隣接する市にもアクアブルー多摩、引地台公園のプールなど楽しいプールがたくさんあります。そのほとんどのプールで休憩時間が設定されています（ちなみに北の丘の障害者用には休憩は設定されていません）。休憩時間に出来る活動も限られていて、定番のジャグジーも夏は混んでいて入れない事もしばしばです。プールには腕時計等を持ち込んではいけないという制限があるところも多く、活動の見通しをつけてもらうのにヘルパーが苦慮する場面も多々あります。

そこでヘルパーさんが考えることといえば「残り時間や再開時間を明確に提示する事」「休憩時間に行なう活動を提示して、やることを明確化させること」この辺が基本的なのですが、制限の多い中ですからなかなかやりたいことが出来ません。そこで、物理的に休憩時間は避けてプランニングする事が重要になってきます。事前に休憩時間を調べて、時間調整して休憩終了直後にプールに入り、休憩開始を合図に着替えに行ったりもしています。そうする事で、自ずとプールのスケジュールが出来上がり、安定して活動を楽しめるようになるのです。他にも、水中運動は消費熱量が大きいのは有名ですが、水中にいるのであんまり汗を掻いた感じはしません。しかし、思いのほか汗を掻き水分排出量が多いそうです。更に、熱中症を始めとした体調の異変をなかなか訴えることが出来ない、訴えているけど気が付いてあげられないことが多いので、夏は水分補給をはじめ、ヘルパーにもいつも以上に気を配るように伝えていました。そんな、夏だからこそその配慮があったのです。

暑い夏もようやく10月に入り秋へと替わったようです。栗に秋刀魚に柿。食べ物が美味しい季節になってきました。支援センターは“春夏秋冬”季節に関係なく、利用者本人の為に“いつでも”“何処でも”をモットーにこれからも活動していきたいと思えます。異常気象が騒がれる昨今で、僕自身も未来への不安が強くなることがあります。自閉症圏の世界で生きている人達は、直接経験が重要でまだ起こってもいない未来を想像する事なんていちばんの苦手だろうから、不安も強いことでしょう。その不安を少しでも解消できるように準備をして、すこしでも幸せに感じられる時間を増やすお手伝いが出来たらと思います。（西村三郎）

募集

ガイドヘルパー

内容：障害のある方の外出の付添い
主に余暇活動。
資格：ヘルパー2級以上
介護福祉士

自閉症者のグループホーム

ケアホーム・ナウシカ 夜間補助スタッフ（男性）
内容：自閉症の人たちが生活するグループホームに泊まる
仕事です。（主に清掃、洗濯等の家事。）
個室完備。夕朝食つき。

連絡先：042-760-1033 詳しくはやまびこ工房までお問い合わせください。

防火防災へのとりくみ

これまでやまびこ工房では、消防署から借りたビデオを見ての防災教育、消防署員を招いての消火訓練、また、利用者さんと一緒にいることを想定しながらの避難訓練を行ってきました。しかし昨今、日本列島では大きな地震が多発していることもあり、昨年より利用者さんも含めた避難訓練の在り方を検討し始めました。自閉症の特性を考慮した上での避難方法、またその後の避難生活の在り方についても検討中ですが、今回はこれまでの取り組みを一部紹介してみたいと思います。

非常時の利用者確認

利用者さんの名前と写真をマグネットに貼り、現在どの作業室にいるのか、また欠席者は誰なのかすぐ確認できるボードを用意しました。これまでの訓練では名簿で行っていた利用者の避難確認をマグネットとボードを使い視覚的に分かりやすくしました。普段からこれを使って利用者さんのいる場所や出欠の確認を行っています。また、このボードには各作業室の職員ごとに担当する点検場所とルートが色分けされて表示されており普段から非常時の動きを確認することが出来ます。

このように日頃使い慣れていくことで、災害時にも慌てることなく利用できると考えています。ちなみに新人スタッフが利用者さんを覚えるためにもとても役にたっています。

利用者写真
マグネット(例)



利用者確認ボード全体写真



確認場所カード(例)

作業室 E 職員の緊急時確認場所
作業室 E
ベランダ
男女更衣室

利用者確認場所

建物内に人が残っていないか全ての場所を確認できるように、各作業室にいる職員の分担場所を決めて、それを記したカードを各作業室の目立つところ貼りました。このカードと一緒に「火事だ!」「門に行きます」カードがおいてあります。(下図参照)職員・非常勤職員の人数分、それぞれのカードが入っており、非常時には各職員がそのカードを使って、確認場所を分担し、利用者さんが無事に避難できるよう誘導します。

個別避難訓練

現在、利用者さんを含めた全体での避難訓練ではなく個別避難訓練を行っています。自閉症の人たちには集団行動や人ごみ等の騒がしい場所が苦手な人、急な予定変更の理解が得意でない人、音声認識が苦手な人で急に大きな声を出されるとビックリしてしまう人が多く、全体で行なう方法はその人たちに合っていないと考えたためです。そして目でものを捉えることが得意な利用者さんに普段から一日の予定や仕事の手順等カードを使った提示を行なっていることから、同様に目で見てわかりやすい以下のようなカード渡すことで、今自分の周りがどのような状況で、どうしなければならないかを理解しやすくできないかを考えました。避難場所は利用者さんがわかりやすく、安全な門の前に設定しました。これらのカードを使ったところ、利用者さんによっていろいろな反応がありました。ここでは若干その例をご紹介します。



例 : 個別、職員と1対1

2F 作業スペースにてシュレッダー作業中に「門に行きます」カードを示し、火事であることを声かけする。手をとって誘導すると職員の手を握り、誘導に従う。走ることも可能だった。門の前で手を握ったまま見守り、待機したところ「くつつつ...」と言い続ける。避難訓練を終えると「くつつつ...」と言いながら、玄関に戻ってしまう。上履きのまま外に出てきたことを気にしていた様子だった。終了後はやや表情が硬いものの、通常通りのスケジュールで活動していた。

(課題) 手を取らないと誘導できない可能性がある。また上履きで外に居ることに抵抗があるため、待機中は手を握ったまま見守りが必要がある。今後は、手を取らずにカードを示されただけで移動できるようにし、指示があるまで待機できるようにする。

非常口



例 : 2名合同、職員3名

Aさん

1F 作業スペースにてパンフレット仕分け作業中に「火事だ!」と声かけし、「火事だ!」カードを見せた後、「門に行きます」カードを見せ、外へ行こうと声かけした。「逃げろー」と言い、正面玄関の方に走っていく。「こっちだよ」と非常口の方へ誘導すると走って戻り、非常口より外にでる。門の前に来ると静かに待つ。職員から「これで避難訓練は終わりです」と伝えられると、走って作業スペースに戻り、作業を再開していた。

(課題) 慌てて玄関方向に走って行ってしまったので、避難ルートも即座に伝える必要があった。また今後は職員の指示が本人に明確に伝わるように、必要以上の大きな声かけは避けるなど本人が指示を冷静に聞くことができるように配慮する必要がある。

Bさん

1F 作業スペースにてハンドシュレッダー作業中に「火事だ!」と大声で声かけし、「火事だ!」カードを見せる。一緒に作業を行っていた Aさんが逃げても本人は怪訝な顔をして作業を続ける。半ば強引に椅子を引いて逃げることを促すと、「避難訓練じゃない!」と大声で言い、怒って机を叩いた。その後も作業を続けていた。

(課題) これまで予定に組み込まれた避難訓練しか行っていないと思われ、緊急時の避難は本人に煙など危険を感じさせる物を見せて誘導する必要がある。

以上、2つの例より、声かけやこれらのカードの提示だけでは動けない利用者さんがいて、スケジュールの変更や場面の切り替えが得意でない自閉症の特性に対する配慮がより必要であるということ、それぞれ避難時には一対一の体制になる可能性が高いこと、また、その人の気になることの対象によっては、たとえ避難できても建物内に戻ってしまう可能性があることなどがわかりました。阪神淡路大震災の時、ある福祉施設では避難した利用者さんが訓練と間違えて施設の中に戻ってしまうことがあったそうです。過去の経験を頼りに行動することが多い自閉症の人たちには訓練にも慎重な対応が必要です。日頃の訓練の際も終了後に部屋に戻るのではなく、門まで避難した後はそのまま帰宅できるような時間設定や、家族やケアホーム「ナウシカ」などへの連絡も行なっていきたいと思えます。また誘導の際に利用したカードをさらに個々の利用者さんに合わせたものに変えてそれを職員が把握しておく必要性を感じました。更に、指示を出す職員が何よりもまず冷静になって適切な支援が行えるように、日頃からイメージトレーニングをすることも大切だと思いました。

まとめ

以上のような取り組みをするなかで、自閉症という障害特性に合わせることは第一として、一人一人の違いにより合った形でスムーズな避難ができるよう準備をしておく必要性が明確になりました。また、夜間や休日など利用者さんがやまびこ工房を利用していない時の、家族やケアホーム「ナウシカ」との連絡体制・各地域の避難場所の確認等を行い、皆で把握できるようなツールも考えていきたいと思えます。

自閉症について ～余暇支援に関する検証～

先日、ガイドヘルプ実習に同行し、感ずるところがあったので記してみたい。

8月の昼下がり、工房から番田駅まで歩く。歩いて20分の距離だ。外に出て5分、自分の顎には汗が垂れくる。Aさんは？汗ひとつかいていない。新人ヘルパーにも見てもらう。お母さんが持たせてくれた濡れタオルを出して顔を拭き、首の裏にあてたりして、体温が少しでも下がるよう試みる。体温調節が自然にできない方が多い。暑い日は特に配慮が必要で、歩いて行ける距離でもタクシーを検討すべきだ。歩く場合は濡れたタオル、冷たい飲み物など、体を冷やせるようなものは用意しておきたい。

カラオケ屋につく。カラオケ時、本人一人で楽しめる方が多い。1時間も2時間も歌う？叫ぶ？踊る？ジュークボックスのように聞き続けるなど万別だ。3年ほど前、養護学校に通うAさんとはじめてカラオケに行った時、カラオケを交互に歌うよう取り組んだ。ヘルパーも楽しめたほうがいい。それが理由だ。本人のお金なのだから、ヘルパーは歌うべきではないと思う人もいるかもしれない。あれから3年。ヘルパーが歌った曲を自分で歌うなんてことがあって、新しいレパートリーになったりする。ヘルパーの歌を聞いていたのだ。(いや、あの曲の時に出る画像を見たいだけかもしれない?)

今回は3人。3人で楽しめるものにしたいが、3人順番に歌うとAさんが満足するだけ歌えず、怒るかもしれない(以前あった)。時間も限られている。そこで、カラオケ順番表を作った。Aさんは順番表を見て、自分の番を確認

カラオケ

| | | |
|---|------|--|
| 1 | Aさん | |
| 2 | 私 | |
| 3 | Aさん | |
| 4 | ヘルパー | |
| 5 | Aさん | |
| 6 | 私 | |
| 7 | ヘルパー | |
| 8 | Aさん | |

していた。必ずしもヘルパーと交互ではなく、2回待つときもある。それはちょっとした意地悪だが、表に着目して欲しいので、そんなことも試みて様子を見る。久しぶりのAさんとのカラオケ。以前は歌本から、歌いたい歌を探し、ヘルパーに伝え、ヘルパーがリモコンに入力し、曲をかけていた。今はデジモン(タッチパネル式で、検索から、入力・送信までできる)で自立して行えていることに感心。

入力する曲も以前とは様変わりしている。テンポの速い曲が多い。しばらくして気づく。サビの部分だけかなあ、歌っているのは。そこでヘルパーに質問。今、Aさんはどこを見ている？画面の上を見てるよね。画面下の字幕(歌詞)ではなくて、画像に意識がいつている。以前は歌いやすい歌をしっかりと歌っていた。カラオケの楽しみ方が変わってきている。

カラオケの楽しみ方ってなんだろう？歌いながら、画像も楽しみ、歌唱力に酔ったり、酔わせたり、やっぱりこの曲はいいななんて私たちは一度にいくつもの楽しみ方をしている。自閉症者にとって、それは難しい。極端な話、ひとつの楽しみ方に限定されてしまう。自分達もそのときそのときはひとつの楽しみ方に限定されているのかもしれない。ただそのひとつに捉われず、移り変わる。するといくつも楽しめているように思えるだけかもしれない。自閉症者は楽しみ方の幅が狭いか、ひとつに捉われがちだ。

今後、Aさんのカラオケをどう組み立てるか？自閉症者の支援においてよく視覚化ということが言われる。わかりやすいからだ。カラオケにおいて歌うよりも画像を楽しむことは自閉症者の特性なのかもしれない。ただ発語が不明瞭な方が歌えること、それは大切にしたい。だから歌いやすい曲の選択を促そう。これは私の考えで、結論は早い！本人に楽しみ方を選択してもらったら、画像を見たいというかもしれない。それを受け入れる？歌えなくなったらどうしよう？仕方ない？結論は急がない。一旦決めたことも振り返り、検証する勇気をもって、これからも自閉症者を支援していきたいと思う。(薬師丸)

やまびこ工房 QWL 向上についての取り組みと、今後の課題

今年度からやまびこ工房に通っている A さんは、作業スキルが高く作業速度も速いです。ただし、自閉症の人たちの多くに見られる能力のアンバランスさが A さんにも見られます。既にやまびこ工房“工場”の主力メンバーの一人として、毎日頑張ってもらっているその A さんについて行った支援を、QWL (仕事の質)の観点からいくつか紹介しようと思います。

パソコンを使った作業

A さんはもともとパソコンが好きで、家庭でも年賀状を作るなど自分なりに上手に使いこなしていました。そこで事務用品の通販カタログの「商品名」、「商品番号」、「価格」を専用シートに打ち込んでもらう仕事を設定しました。この仕事を通じて[求められた仕事ができる][一定の量を持続して行う]ことを目標としました。合わせてパソコンを使う上での技術(検索等)の習得も課題として設定しました。通販カタログの他にも実際に施設内に掲示する献立表もパソコンで作ってもらっています。これからは更に仕事の正確さについてもレベルアップできたら、と考えています。又、この仕事は好きな仕事なので、朝最初に設定することで、一日を落ち着いてスタートできるよう配慮しました。

ベルマーク

ベルマークは親御さんを通じて、市内の学校で集めているものを預かってまとめる作業です。それぞれの銘柄に番号がついていて全体で 100 番ぐらいまであり、それを番号ごとにまとめ更に点数の同じものを 10 枚ずつセロハンテープでまとめて出来上がりです。この作業は工程が多く所謂「手間のかかる作業」なので、全工程を次のように 3 つに分けました。

1~10、11~20...というふうに 10 コの紙コップに番号を確認しながら分けます。

各コップから更に一つ一つの番号ごとにビニール袋に分類する。ここまでで 1~100 までの銘柄の分類が終わります。

各袋には同じ銘柄のベルマークが入っていることになりませんが、点数が 1 点、2 点というように違うものがあるのでそれらを分け、同じ点数のものを 10 枚まとめてセロハンテープで貼ります。

上のように 3 つに分けて作業することで混乱することなく各工程に集中できるようになり、間違いも殆んどなくなっています。

仕事の質にはいくつかの要素がありますが、パソコンの作業は「本人に合った仕事」を設定できたことや「より社会的な仕事への可能性」が生まれたこと、ベルマークの作業では「作業の環境調整のレベル」が上がったことや「仕事に携わることによって果たす地域での役割」が広がったことが収穫といえるのではないかと思います。

【今後の課題】

ここで実際の就労を想定したとき、上のような限定された仕事の部分とは別に必要となる様々な事柄があります。それは、通勤、挨拶、食事、余暇時間の過ごし方、職場での対人関係、ハプニングへの対応等々です。A さんの日常を振り返ってみるとこうした部分でのアンバランスさが、仕事の部分よりも、多く見られるように思います。やまびこ工房内の QWL の向上はひとつの結果、足がかりとして、これからはそういった面についての支援も同時に意識してゆく必要があります。実際に仕事に就くときは、そこにある(求められる)状況に合わせて必要な支援を入れてゆかなければなりません。今一度 A さんの生活全体を見直し A さん、職員ともども少しずつでも自信を積んでいければ、と思います。現在、日本は「仕事に就く」ということに関して障害を持つ持たないに限らず難しい状況ですが、内にこもることなく利用者と仕事を結びつける意識を持ち続けたいと思います。(鹿野)



後援会のページ

今年の夏は記録的な猛暑となり、全国的にも熱中症で倒れたり、体調を崩された方が多数出ました。最近になり、ようやく朝晩は涼しくなり秋らしさが増して来ました。家族会の皆様は元気に、ハイキング等のレクリエーション、秋の味覚鑑賞と種々プランを立てて、充実した秋を楽しまれると思います。

さて、風の谷後援会の行事も5月の「地域交流バザー」、8月の「夕涼み会(相模原納涼花火大会見物)」、「ブルーベリージャム作り」等、後援会役員、家族会の皆様、地域の人達のご協力を得て、無事実行されてきましたことに感謝しております。

皆様ご存じのとおり、「社会福祉法人風の谷」は「相模原市自閉症児・者親の会(相模原やまびこ会)」会員の熱い願いを基に、平成9年9月に設立され、翌10年7月には、自閉症者通所更生施設として「やまびこ工房」が開所しました。法人設立、施設開所は、会員の希望を核として、相模原市、神奈川県行政、地域の人達の温かい支援があって実現したものです。

来年で、やまびこ工房開所10周年を迎えます。この10年間でやまびこ工房も利用者、家族、職員、地域の人達とともに、着実に成長して来ました。今後とも、今までの経験を活かすとともに、地域の中で更に充実した活動を継続してゆく必要があります。

後援会としても、微力ながら支援を続けてゆきますので、皆様のご協力をお願い致します。

風の谷後援会会長 鈴木 秀美

【更新・個人】平成19年6月13日～9月19日(敬称略)

(相模原市内)

原徹、柏木忠雄、森合貞雄、高橋ツギ、小林義明、川島和章、今関陽子、堀田修司、斉藤敦司、佐藤清一、荻原常寿、荻原元紀、百田紀久男

(その他地域)

佐々木継生(北九州市)、成瀬富子(平塚市)、奥平彰二(伊勢原市)、佐藤辰男、藤野孝夫、新井靖数(厚木市)、中島和之(名寄市)、塚本寿子(福井県)、舟部光徳(町田市)、日野資純、日野朝子(静岡市)、岩野絵里子(海老名市)、岩崎秀二(小平市)、下田武(藤枝市)、守屋恵美子(堺市)、宮手敏雄、源新和子(盛岡市)

【更新・団体】

ワーカーズコープ・キュービック(横浜市)、伸和トラスト(相模原市)

ありがとうございました。

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的としております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

お問い合わせ先

〒229-1124 『風の谷後援会』事務局

相模原市田名7236-3 社会福祉法人 風の谷 内 TEL:042-760-1033 FAX:042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345